

2008年4月	幡野雅彦 動物病態学教授就任
2008年4月	伊勢川直久 専任講師昇任
2009年4月	中山俊憲第九代施設長（免疫発生学）就任
2015年4月	幡野雅彦第十代施設長（疾患生命医学）就任
2018年4月	伊勢川直久 専任准教授昇任
2020年4月	新型コロナウイルス流行に伴う動物実験対応措置
2023年3月	幡野雅彦教授 定年退職 伊勢川直久専任准教授 定年退職
2023年4月	古関明彦第十一代施設長就任

## 第4節 治療学の創成と治療学研究棟の命名

### 第1項 背景

千葉大学の医学部・大学院医学研究院は、これまで150年に亘り、食道癌手術の中山恒明先生、川崎病発見の川崎富作先生、免疫学の多田富雄先生らに代表される、「治療法や治療薬」の開発や新たな疾患の発見などに秀でた医学者、医学研究者を生み出してきた。その時代時代で最先端の治療を実践する優れた臨床医を日本全国に数多輩出し、社会に大きく貢献してきた歴史がある。この優れた人材育成の伝統を踏まえ、2012（平成24）年に、医学研究院副院長であった中山俊憲教授（後に学長）が座長として、千葉大学の大学院医学研究のグランドデザイン将来構想を策定し、大学院医学研究院の研究の方向性を明確化した。

### 第2項 概要

大学院医学研究のグランドデザイン将来構想のなかで「治療学」という言葉を「治療の理論及び新規治療法の開発を系統的に研究・実践する学問分野」と定義し、千葉大学医学部・医学研究院は、「治療学」という言葉を旗頭に「治療学」研究の推進と人材育成によって、治療学研究拠点の創成を目指すこととした。「治療学」という言葉は新しい言葉であるが、「診断学」と対比するかたちで捉えればイメージしやすい言葉である。それまでも、千葉大学は博士後期課程の改革プログラムである文部

科学省グローバルCOEプログラム「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」(2008～2012)、博士課程リーディング大学院プログラム「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」(2012～2018)を企画・推進してきたが、どちらも「治療学」の名称を持ち、「治療学」の概念が醸成していた。

また、第5節に記載のあるように、2021年3月に竣工した医学部・医学研究院の新研究棟の玄関には、「医学系総合研究棟」という正式名称とともに、「治療学研究棟」という名称が併記されている。医学研究院の講座は、殆ど「治療学」という言葉を冠している。例えば、「脳・神経治療学研究講座」、「呼吸・循環治療学研究講座」、「先端がん治療学研究講座」、「高次機能治療学研究講座」などである。それぞれの大会場には基礎、臨床を問わず関係領域の研究室が配置されている。廊下を挟んで関連研究を行う基礎と臨床の研究室が並んでいる、といった具合である。「治療学研究棟」は医学部附属病院と廊下で繋がっており、大学院医学研究は、「治療学研究棟」を拠点に、ブランドデザイン将来構想に沿った大学院教育と研究拠点形成が進んでいる。



写真1-4-4-1  
医学部・医学研究院の新研究棟の玄関の看板

## 第5節 医学系総合研究棟の新設



写真1-4-5-1 医学系総合研究棟外観（南玄関側）